

田岡化学工業株式会社
2021 年 3 月期第 2 四半期 決算説明会 質疑応答要旨

日時：2020 年 11 月 12 日 13 時 15 分~14 時

当社説明者： 取締役社長 佐藤 良
専務取締役事業支援室長 田岡 信夫

[説明内容]

11 月 12 日に開示した全 35 ページの PDF に沿い説明。

https://www.taoka-chem.co.jp/ir/note/202103_2_briefing.pdf

[質疑応答内容]

<樹脂原料(特殊ビスフェノール)について>

質問 1 上期の売上はどの程度伸びたのか。

回答 量的には約 60%、精密化学品の伸びのうち約 80%程度となった。

質問 2 下期の売上見通しはどのように見ているか。

回答 下期は上期並みの売上を維持すると予想している。

質問 3 売上の前年対比の伸びの背景は何か。

回答 スマートフォンのカメラの複眼化が進んでいることが主因と見ている。

質問 4 来期以降の売上見通しはどのように見ているか。また、生産・供給能力は十分なのか。

回答 短期的対策により自社設備の能力を上げ、不足が予想される分は委託製造やリセール等の形態で他社の設備を活用し、できるかぎりの増産・供給をして、サプライヤーとしての責任を果たすという方針でやってきている。さらに中期的対策として自社新工場の意思決定をし、合併会社の検討も続けている。来期以降も短期的対策・中期的対策の両面から増産に努め、サプライヤーとしての供給責任を果たし成長を続けていきたい。

質問 5 生産委託とライセンス供与の構成比はどのようになっているか。

回答 変動しており数値では答えにくいですが、委託製造の方がメインである。

質問 6 来年ライセンス供与の比率が上がり、売上の伸び率が低下することはありうるのか。

回答 来年についてはライセンスと委託製造の構成比には、売上の伸び率に影響するほどの大きな変化はない見込みである。

質問 7 先日の三菱ガス化学の決算説明会の資料によると超広角の大きなレンズに特殊ポリカが使われているとのこと。そういったことが樹脂原料の製品グレードのアップにつながっているか。また何のスペックで樹脂原料の製品グレードは上がるのか。

回答 製品グレード毎に屈折率、複屈折率といった特性が異なるが、個別の顧客製品への具体的な適用は不明である。

質問 8 三菱ガス化学との合弁会社は同社が発表しているポリマー生産設備増設計画と一体か。

回答 樹脂原料の増産検討の一環であり、ポリマーの増設計画とは切り離して協議が進められている。

<ワニスについて>

質問 1 上期の売上の伸びはどの程度か。

回答 機能樹脂全体では 2 割程度。そのうち紙用加工樹脂は新型コロナウイルスの影響もあり減収。ワニスは 30 パーセント程度の増収となった。

質問 2 来年および再来年の売上の伸びはどの程度と見ているか。

回答 環境対応車向けの絶縁被覆材料のワニスは今後も伸びると見ており、今年度並みの 3 割程度の伸びを期待している。

質問 3 中国のハイブリッド車優遇政策の影響はどう見ているか。

回答 中国では、環境対応車を国策として進めており、需要は増加すると見ている。当社もそれに備えて田岡化工材料上海を開設し、体制を整えている。

<三井化学・三井物産による本州化学 TOB について>

質問 1 スマートフォン向けビスフェノールの事業への影響はどう見ているか。

回答 現行の取引に影響はないと考えている。

質問2 親子上場の観点において、住友化学との関係はどう見ているか。

回答 利益相反取引もなく、少数株主の利益毀損もないよう独立して運営し、配当政策をとっている。親子上場で指摘されている問題は当社には該当しないと考えており、この TOB が住友化学と当社の関係に影響を与えるものではない。

<グラフェンナノリボンについて>

質問 原料モノマーの量産化に目途がついたというのはこの半年のことか。

回答 昨年6月に公表した名古屋大学との共同研究について、これまで（1年4か月間）の進捗状況を報告した。

以 上